

文章を書くのが苦手です。しかし、昨年3代目桂文之助を襲名させていただき、いろんなことにチャレンジしようと、この欄をお引き受けしました。

が、さて、何を書けばよいものか。

こういう時は、文章の達人にお力を借りようと調べてみました。井上ひさし先生は著書「井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室」で、いちばん大事なことは、自分しか書けないことを、誰にでもわかる文章で書くということと説いておられます。しかし、それが難しい。また聞きですが、兵庫出身の有名な女性作家は「平易な言葉で伝えたいことを表現していくのが、一番難しい」。…ほら、やっぱり

ありそうでない極意

——桂 文之助

り。

そういえば、以前舞台でお芝居をさせていた時、ベテランの役者さんに「舞台に自然に立つ方法は？」とお聞きしたことがあります。答えは「いつもニュートラルの状態です。自然体、自然体」。

それができないから質問したのに。

思うに、極意というようなもの、あつてないようなもので、志した道を愚直にコツコツと積み上げていくしかないようです。

落語も、稽古の積み重ねです。ただ、それだけでもないように思います。落語のおもしろさを

十分に出すためには、落語を語る落語家に人間的な魅力がなければならぬと思います。そのためにはいろんな体験をし、いろんな人たちと出会うことが肝心だと思います。

そう思つて、この欄をお引き受けしたのですが、あれ、元へ戻つてしまいました。どうも私は、まだまだです。



かつら・ぶんのすけ 落語家。1956年神戸市長田区出身。兵庫県立兵庫高校卒。75年、故桂枝雀に入門。88年にNHK落語新人コンクール優秀賞を受けたほか、大阪舞台芸術奨励賞、文化庁芸術祭優秀賞などを受賞した。2013年、3代目桂文之助を襲名した。落語家で初めての気象予報士でもある。

随想